

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- 2009年9月調査結果 -



## 業況DIは、7カ月振りにマイナス幅が拡大

### < 結果のポイント >

9月の全産業合計の業況DIは 61.4と、前月に比べ 1.8ポイントとなり、7カ月振りにマイナス幅が拡大した。業況は、底離れの兆しが出ているものの足取りは鈍く、低水準の横ばい状態が続いている。経済対策の効果などから、売上は持ち直しの動きがみられるが、競争激化による低価格受注や販売単価の低下から企業収益は厳しい状態が続いている。

業種別では、卸売業を除く、すべての業種でマイナス幅が拡大した。建設業、製造業については、公共工事や環境対応車の購入助成、エコポイント制度などの経済対策の効果が表れているものの、住宅建設や設備投資などの民間需要は低迷が続いている。一方、小売業、サービス業については、旅館業を中心に秋の大型連休による売上増加がみられたものの、天候不順や新型インフルエンザの影響などもあって、総じて個人消費は弱含みとなっている。

雇用情勢の悪化を反映して、従業員DIについては、マイナス幅が拡大した。給与や賞与などの減額や労働時間の調整、雇用調整助成金制度などの利用により、「なんとか雇用を維持している」のが実態となっている。また、売上DI、採算DI、資金繰りDIについてもマイナス幅が拡大した。資金繰りDIについては、金融機関の貸出態度が厳しくなっているとの指摘が多くなっている。

先行きについては、雇用・所得情勢の悪化や設備投資の減退など需要低迷、売上の長期停滞などにより、継続的な資金繰りが限界に達しつつあるという声が多い。また、建設業を中心に政権交代による公共工事など補正予算の凍結や、燃料や一部の原材料（銅や砂糖など）の価格上昇、円高を懸念する声が出ている。また、秋以降の新型インフルエンザの感染拡大による景気の下振れを懸念する声も強い。

### ----- 調査要領 -----

調査期間 2009年9月14日～18日

調査対象 全国の407商工会議所が2589業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：383 製造業：615 卸売業：235

小売業：737 サービス業：619

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等  
DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )

業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

-----  
【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:Sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

< 産業別の特徴的な動き >

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、61.4と、前月に比べ1.8ポイントとなり、7カ月振りにマイナス幅が拡大した。産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、卸売業を除く、他の4業種で拡大した。建設業、製造業、卸売業では、売上の長期低迷などから従業員DIの過剰感が強まっている。雇用維持のため労働時間や給与等を調整している企業は約6割に達している。一方で、「不況期だからこそ優秀な人材が集まる」と採用に積極的な企業も一部みられる。

また、売上低迷や売掛金の回収サイトの長期化から、「融資を受けても持ちこたえられない」との声が出ており、企業の資金繰りは厳しさを増している。特に、建設業では、9月の中間決算を前に、金利引き上げ、担保要求等、金融機関の貸し出し態度が厳しくなっているとの声が出ており、資金繰りDIはマイナス幅が拡大した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ 好転 ↓ 悪化

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↑	↓

- ・「公共工事の前倒し効果が出ているが、政権交代による補正予算凍結を懸念」（土木工事業）
- ・「公共工事の前倒し効果で、低価格であるが受注増。従業員も不足する会社が出てきている」（建築工事業）
- ・「雇用維持のための努力について労働時間の調整の他に、給与等の減額を行っている」（一般工事業）

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↓	↓

- ・「価格競争が厳しく、利益が減っている」（暖房装置・配管工事用附属品製造業）
- ・「取引各社の新型、モデルチェンジの金型注文が増加。売上高も上昇しているが、前年同期比では30%減で業況回復には程遠い」（ゴムプラスチック製履物製造業）
- ・「自動車関連に生産回復がみられるが、設備投資にまでは至っていない」（建設・鉱山機械製造業）

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↓	↓

- ・「売掛金の回収サイトが徐々に長期化している」（農畜産水産物卸売業）
- ・「多くの業種で売上に下げ止まり感が出てきている」（農畜産水産物卸売業）
- ・「雇用維持のため雇用調整助成金制度の利用を検討」（建築材料卸売業）

【小売業】

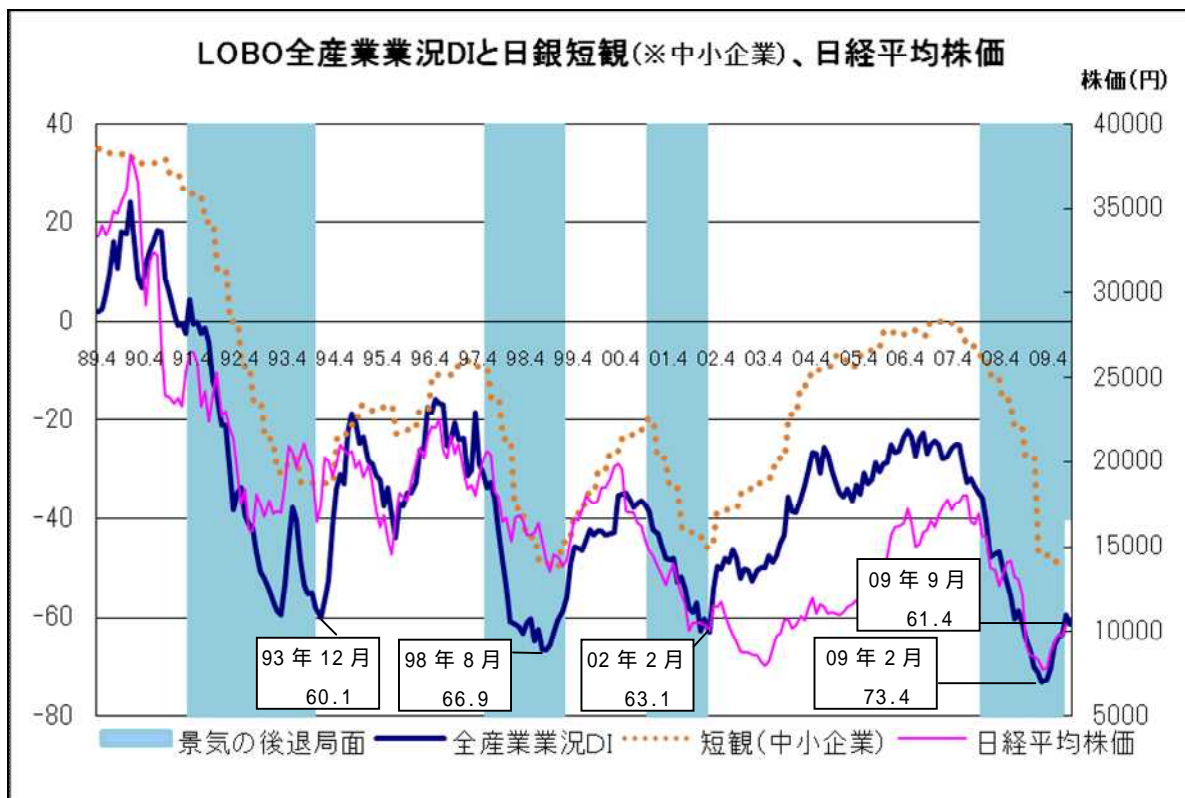
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↑	↑	↑	↑	⇔

- ・「8月の駿河湾の地震以降、防災用品の売上が増加。客数も前年を上回る」（百貨店）
- ・「エコポイントで薄型テレビが出ているが単価下落で売上額は伸びない」（その他の小売業）
- ・「天候不順の影響で夏物の処分が進まず、秋物は価格の下落が著しい」（商店街）

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↑	↓	↑	↑

- ・「新型インフルエンザの感染拡大による売上減少を懸念」（食堂・レストラン）
- ・「シルバーウィークの影響で予約が増えた」（旅館）
- ・「新車の販売台数は減ったが、今乗っている車を修理して長く使用する傾向があり、修理の仕事が増えている」（自動車整備業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、61.4となり、前月に比べると1.8ポイントと、7カ月振りにマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、卸売業を除く、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が46.4と前月とほぼ同水準であるが、昨年同時期の先行き見通し（54.6）に比べて8ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

業況DI(前年同月比)の推移

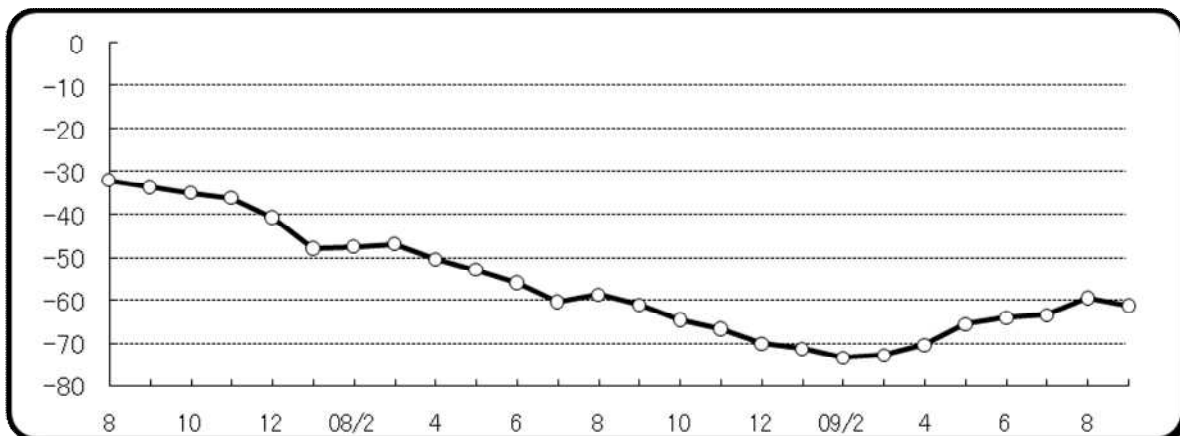
	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	70.4	65.7	64.2	63.6	59.6	61.4	46.4 ( 46.3 / 54.6 )
建設	70.9	71.6	66.7	61.2	56.3	57.5	49.8 ( 46.9 / 61.2 )
製造	74.4	69.1	70.6	65.7	62.9	67.0	40.7 ( 42.5 / 52.4 )
卸売	66.7	66.2	61.8	65.5	61.1	56.8	41.5 ( 45.8 / 49.0 )
小売	70.9	66.2	63.4	65.1	60.7	64.0	50.1 ( 50.2 / 54.8 )
サービス	66.9	57.7	57.3	60.3	56.3	56.9	47.8 ( 45.4 / 54.6 )

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

( )内左側(網かけ)は前月8月の先行き見通しDI

( )内右側は昨年9月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上DIは、58.4となり、前月に比べると0.5ポイントと、6カ月振りにマイナス幅が拡大した。産業別にみると、卸売業、小売業を除く、他の3業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が40.8と前月に比べわずかながら改善し、昨年同時期の先行き見通し（41.8）に比べても1ポイント、マイナス幅が縮小している。

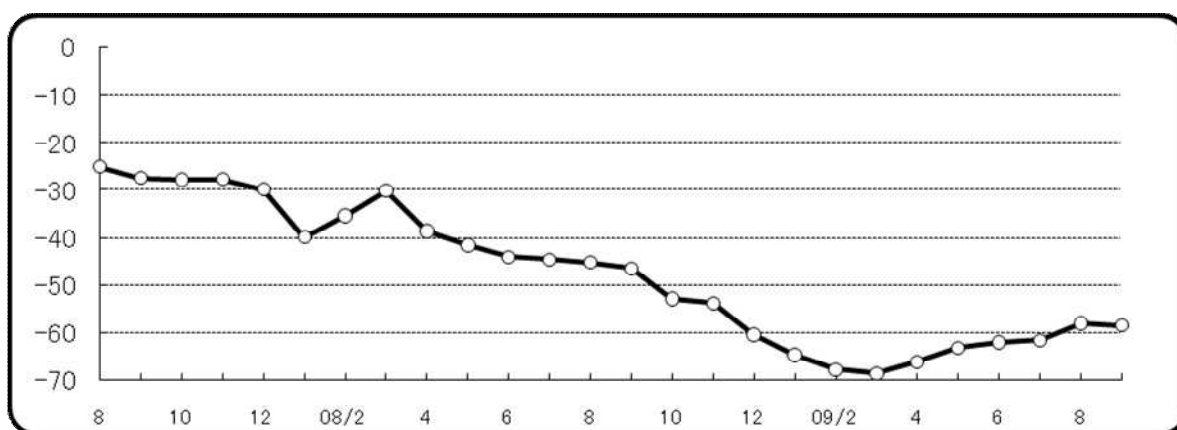
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売業、サービス業を除く、他の3業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	66.2	63.2	62.0	61.6	57.9	58.4	40.8 ( 41.2 / 41.8 )
建設	68.2	69.3	60.3	54.2	52.0	52.2	42.7 ( 38.6 / 53.0 )
製造	70.3	68.2	65.9	65.0	62.6	66.1	33.4 ( 33.2 / 39.2 )
卸売	60.9	53.8	61.1	60.0	56.9	54.7	34.0 ( 28.5 / 34.9 )
小売	65.9	60.8	64.6	66.7	61.4	60.6	47.6 ( 50.2 / 43.7 )
サービス	63.2	60.5	56.2	57.3	52.7	53.4	42.2 ( 46.0 / 37.9 )

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
 ( )内左側（網かけ）は前月8月の先行き見通しDI  
 ( )内右側は昨年9月の先行き見通しDI

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、57.1となり、前月に比べると0.1ポイントと、ほぼ横ばいとなった。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、建設業、製造業で拡大した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が43.2と前月と比べいくぶん改善し、昨年同時期の先行き見通し(49.5)に比べても6ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I(前年同月比)の推移

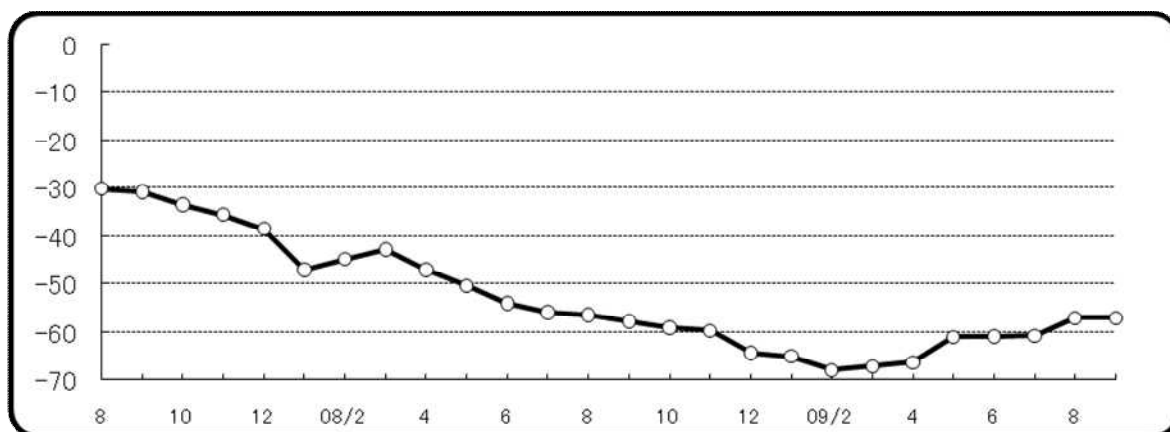
	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	66.3	61.0	60.9	60.8	57.0	57.1	43.2 ( 44.1 / 49.5 )
建設	70.5	64.7	67.1	61.1	56.8	58.1	44.9 ( 42.5 / 59.5 )
製造	73.6	68.2	68.3	65.8	61.8	65.4	42.5 ( 42.2 / 49.7 )
卸売	56.9	53.8	56.3	56.4	54.2	50.0	35.4 ( 35.4 / 42.3 )
小売	64.4	59.3	58.4	62.0	57.7	57.3	44.3 ( 48.8 / 47.0 )
サービス	61.9	56.0	53.3	55.9	52.4	50.3	44.8 ( 45.1 / 48.9 )

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

( )内左側(網かけ)は前月8月の先行き見通しD I

( )内右側は昨年9月の先行き見通しD I

《採算D I(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	46.9	43.1	42.7	44.7	39.9	40.1	33.3 ( 32.8 / 36.2 )
建設	56.4	51.3	50.9	47.9	43.6	47.5	41.3 ( 36.1 / 46.9 )
製造	57.3	52.7	56.6	53.3	48.7	48.3	36.8 ( 38.9 / 37.8 )
卸売	41.2	40.1	35.1	38.2	38.0	35.0	26.6 ( 24.3 / 30.5 )
小売	39.2	34.8	32.9	38.0	35.9	35.4	29.5 ( 29.4 / 29.0 )
サービス	40.7	38.2	35.9	43.5	33.4	34.2	31.6 ( 31.4 / 38.1 )

D I = ( 好転の回答割合 ) - ( 悪化の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、40.1となりマイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設、サービスの2業種でマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計はマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみると、小売を除く、他の4業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	15.4	13.6	11.6	9.5	10.5	10.3	11.0 ( 12.8 / 48.5 )
建設	19.7	22.3	18.5	15.9	16.8	15.5	16.0 ( 13.3 / 48.1 )
製造	15.6	12.3	10.1	9.1	6.1	8.4	15.1 ( 13.7 / 49.6 )
卸売	18.8	11.8	8.3	3.6	1.4	2.0	2.7 ( 5.6 / 40.5 )
小売	11.4	9.8	7.1	7.6	6.9	6.5	5.5 ( 9.9 / 48.7 )
サービス	15.5	14.4	15.2	13.1	19.4	17.3	13.5 ( 18.0 / 50.6 )

D I = ( 下落の回答割合 ) - ( 上昇の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは10.3となり、上昇感は弱まっている。産業別にみると、建設、小売、サービスの3業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみると、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

( )内左側(網かけ)は前月8月の先行き見通しD I

( )内右側は昨年9月の先行き見通しD I

従業員 D I (前年同月比) の推移

	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	21.9	21.2	18.7	21.1	19.4	20.5	16.2 ( 15.7 / 7.4 )
建設	34.5	39.5	36.5	37.4	25.4	31.7	26.7 ( 24.2 / 22.0 )
製造	33.0	31.7	28.4	32.3	29.2	30.6	24.3 ( 19.8 / 7.2 )
卸売	23.9	17.9	17.4	21.7	19.4	25.3	16.4 ( 19.4 / 13.5 )
小売	11.8	10.7	9.0	10.5	13.3	13.3	11.2 ( 11.0 / 2.3 )
サービス	13.6	11.9	8.3	11.0	12.3	8.8	6.5 ( 9.7 / 1.7 )

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

- 【前年同月比 D I】全産業合計の従業員 D I は、 20.5 となり過剰感は強まった。  
産業別にみると、建設、製造、卸売の 3 業種で過剰感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、すべての業種で過剰感が強まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう 3 カ月の先行き見通し D I  
( ) 内左側 ( 網かけ ) は前月 8 月の先行き見通し D I  
( ) 内右側は昨年 9 月の先行き見通し D I



【2009年9月の景気キーワード】

**雇用情勢のさらなる悪化**

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。

- ・「週4日休業体制を取り生産調整している」(瀬戸・陶磁器・同関連商品製造業)
- ・「労働時間の調整と給与・賞与などの減額を行っている」(千葉・一般産業用機械製造業)
- ・「雇用調整助成金の利用を検討する企業が増加」(静岡・自動車・同附属製品製造業)
- ・「人手不足だが、採用ができない状況」(松戸・百貨店)
- ・「退職者が出た際、人員補充を行わない」(草津・百貨店)
- ・「専従者の給与が支払うことができない状況」(酒田・その他の小売業)

**資金繰りの悪化**

売上低迷や売掛金の回収サイトの長期化から、企業の資金繰りは厳しさを増している。また、9月の中間決算を前に、金利引き上げ、担保要求等、金融機関の貸し出し態度が厳しくなっていると指摘する声が寄せられている。

- ・「工場等を処分した場合、事業資金の借入残と相殺できるならば工場を閉めたいという話もある」(さいたま・金属加工機械製造業)
- ・「融資を受けても持ちこたえられるか心配」(塩尻・商店街)
- ・「夏物売上低調から、支払いなど資金繰りが厳しい状況」(八王子・商店街)
- ・「一部金融機関の融資姿勢が以前にも増して厳しくなってきた」(横浜・一般工事業)
- ・「業界の業況悪化などから、金融機関の資金借り入れ等査定に厳しさが増している」(函館・水産食料品製造業)

**広がる低価格化**

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下等について訴える声が多く寄せられた。

- ・「受注競争が激化」(静岡・一般工事業)
- ・「工事単価の減額を余儀なくされ、利益が出るか出ないかの状態」(松戸・左官工事業)
- ・「消費者の購買動向は低価格指向が続いている」(函館・水産物食料品製造業)
- ・「採算割れの価格で受注する競合他社があり、全体の受注単価が下がっている」(松戸・建設建築用金属製品製造業)
- ・「低価格指向が進んでいる」(長野・農畜産水産物卸売業)
- ・「品質がよく安くなければ売れない」(蕨・百貨店)
- ・「仕事が安い店舗に集中している」(高砂・洗濯業)

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 4月	受注の大幅な減少	雇用情勢のさらなる悪化	先行きに対する期待感
5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの悪影響
6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
8月	雇用情勢の悪化	経済対策の効果	広がる低価格化
9月	雇用情勢のさらなる悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北、関東、東海、近畿の5ブロックでマイナス幅が拡大している。特に、北海道、東北、関東では製造業を中心に、東海、近畿では建設業を中心にマイナス幅が拡大した。北陸信越は小売業を中心に、中国は製造業を中心に、マイナス幅が縮小した。四国のマイナス幅の縮小は卸売業を中心に、九州のマイナス幅の縮小は製造業を中心に、業況判断が「悪化」から「不変」に変更したため、実態は横ばい状態とみられる。

ブロック別の向こう3カ月（10月～12月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、東北、北陸信越、関東、東海、四国でマイナス幅が拡大した。また、昨年同時期と比べて、北陸信越を除く、すべての地域でマイナス幅が縮小している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	70.4	65.7	64.2	63.6	59.6	61.4	46.4 ( 46.3 / 54.6)
北 海 道	62.9	58.8	56.4	50.6	52.3	60.8	45.6 ( 52.3 / 56.1)
東 北	72.7	64.6	66.9	65.9	56.7	62.9	47.3 ( 44.5 / 59.5)
北陸信越	70.7	58.7	60.1	69.0	66.7	63.2	48.3 ( 46.1 / 47.0)
関 東	71.9	67.4	66.7	63.8	56.5	60.0	45.9 ( 43.5 / 55.3)
東 海	77.0	75.4	70.1	67.2	62.1	67.1	46.1 ( 42.8 / 53.5)
近 畿	74.1	74.2	70.3	67.8	62.0	67.4	49.5 ( 49.5 / 61.6)
中 国	74.1	77.2	71.9	69.3	71.3	67.2	47.5 ( 47.5 / 50.8)
四 国	49.6	47.7	49.2	50.4	50.4	47.2	32.0 ( 39.8 / 48.1)
九 州	71.6	60.9	58.9	61.1	59.0	56.5	52.6 ( 54.3 / 53.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

( )内左側（網かけ）は前月8月の先行き見通しD I

( )内右側は昨年9月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共工事の削減による雇用情勢の悪化など、北海道経済への影響を懸念」(一般工事業)</li> <li>・「資金借り入れ等の査定が厳しくなっている」(水産食料品製造業)</li> <li>・「エコポイント制度の効果によりテレビと冷蔵庫の売上が好調」(商店街)</li> <li>・「新型インフルエンザの感染拡大による影響を懸念」(旅館)</li> </ul>
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国内加工から中国生産にシフトしていた商品加工が国内に戻り、高付加価値販売に路線変更している」(織物外衣製造業)</li> <li>・「見積り依頼が少なくなってきた」(他電気機器製造業)</li> <li>・「商品単価の下落と消費減退が続いている」(農畜産水物卸売業)</li> <li>・「地元客の購買力の弱さを実感している」(商店街)</li> </ul>
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「受注が減少傾向にあり、休業する事業所が増加」(金物類製造業)</li> <li>・「個人消費の低迷により、回復の目途が立たない」(農畜産水産物卸売業)</li> <li>・「アジアを中心とした外国人観光客や、高速道路料金値下げ効果による土日の観光客が増加」(百貨店)</li> <li>・「融資を受けても持ちこたえられるか心配」(商店街)</li> <li>・「新潟国体開催の効果で10月中旬まで好調が続くと予想」(旅館)</li> </ul>
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「不況期だからこそ、優秀な人材が集まるため、期間従業員・正社員とも採用する見通し」(土木工事業)</li> <li>・「売上は下げ止まったが、回復の兆しは感じられない。円高も懸念」(他金属製品製造業)</li> <li>・「売上は前月比で下げ止まったが低水準」(鉱物金属卸売業)</li> <li>・「夏物の売上不振から、資金繰りが厳しい」(商店街)</li> </ul>
東海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「補正予算の見直しによる工事削減により、業界はますます厳しくなる」(一般工事業)</li> <li>・「自動車関連の下請けはよいが、週休3日のところが多い」(鉄素形材製造業)</li> <li>・「従業員の雇用を守るのが厳しい状況」(百貨店)</li> <li>・「受注の減少により売上減。回復には時間がかかる」(自動車整備業)</li> </ul>
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業の設備投資は低調」(一般工事業)</li> <li>・「優秀な技術者を採用したい」(一般産業用機械製造業)</li> <li>・「シルバーウィーク効果で家族連れを中心に予約状況は好調」(旅館)</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「工事の受注は若干増えているが、利益が出ない状態」(建築工事業)</li> <li>・「鉄鋼メーカーに減産緩和の動きが出始め、回復の兆しがみられる」(耐火物製造業)</li> <li>・「水島工業地帯の操業回復に伴う、給食向け食材がこれから上向くことを期待」(農畜産水産物卸売業)</li> <li>・「観光客の減少により来客数も減少」(食堂・レストラン)</li> </ul>
四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鉄関係の仕入れ値が上昇してきている」(一般工事業)</li> <li>・「金属部品の企業は上向き、造船関係は仕事がなくなる」(建設建築用金属製品製造業)</li> <li>・「新商品の婦人服の売上が好調」(百貨店)</li> </ul>
九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校関係の耐震補強工事が活発に発注されている」(一般工事業)</li> <li>・「インターネット販売で売り上げを維持」(各種商品卸売業)</li> <li>・「依然消費は低水準のまま」(百貨店)</li> <li>・「来客数は変わらないが、客単価は2割減」(酒場・ビアホール)</li> </ul>